

郷土の偉人

神田 孝平

かんだ

たかひら

文政十三年（一八三〇）— 明治三十一年（一八九八）



かんだたかひら

神田孝平は、今から150年ほど昔、日本が江戸時代から明治時代という新しい時代に移り、文明開化という近代化を目指す政策を進めていく中で、西洋の新しい知識を身につけ、現代につながる新しい制度のもとを作り上げた人物です。

代表的な功績に明治維新の三大改革のひとつ地租改正の原案を作成したことなどがあげられます。また、数学、考古学、天文学、文学など幅広い分野でも活躍がみられます。

明治の偉人、福沢諭吉にも並び称されるほどの学識と功績を残した郷土の誇りである神田孝平を紹介します。

郷土の偉人 神田孝平

かんだ たかひら
神田孝平は文政13年(1830)竹中家の家臣、神田孟明もうめいの子として岩手に生まれました。孝平が3歳のとき、父が亡くなり、おじの神田柳溪りゅうけいに育てられました。

弘化3年(1846)17歳のとき、京に出て伊奈遠江守いなとおとうみのかみに仕え、漢学を学びました。嘉永元年(1848)伊奈遠江守が江戸の要職に就いたため、孝平も江戸へ移りました。



神田孝平邸宅跡

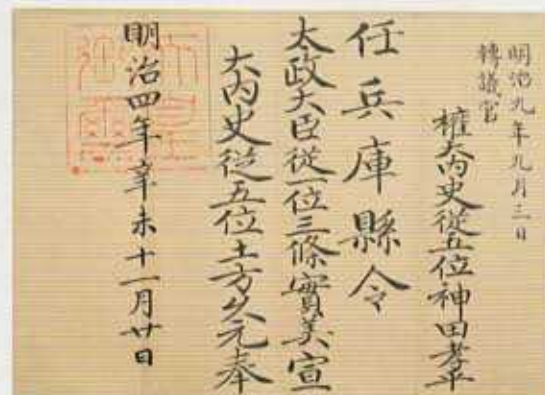
嘉永4年(1851)おじの柳溪が亡くなり、一時岩手に帰郷しますが、嘉永6年(1853)ペリーが来航したことに衝撃を受け、再び江戸へ出て蘭学らんがくを学びました。また、この時期に長崎に遊学して福沢諭吉ふくざわゆきちとも親しくなりました。その後、文久2年(1862)には幕府の洋学研究所である蕃書調所ばんしょしらべしょの数学教授を命じられ、幕府が倒れるまで、幕臣として蘭学の教授を続けました。



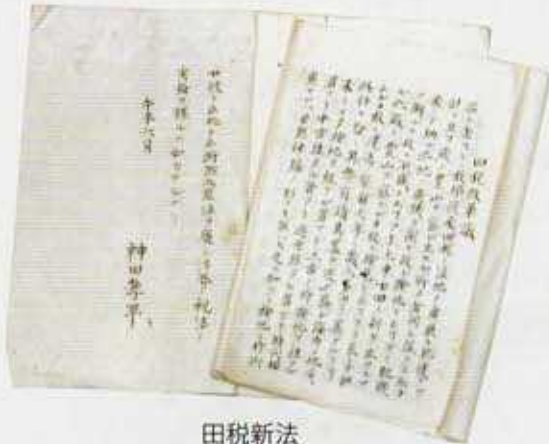
数学教授本

慶応4年(1868)7月に京都の新政府に仕えることになりました。この年の10月から東京(江戸を改称)に戻り、公議所副議長などの要職を歴任し、新政府の体制作りに貢献します。明治4年(1871)

ひょうごけんれい
兵庫県令(県知事)となり地方へ転出し、全国中三県令の一人といわれ、民衆に寄り添ったその行政手腕は高く評価されました。明治9年(1876)元老院議官げんろういんぎかんとして中央に復帰し、明治23年(1890)には貴族院議員きぞくいんぎいんに選出されましたが、翌年、病のため議員を辞職し、明治31年(1898)に亡くなりました。



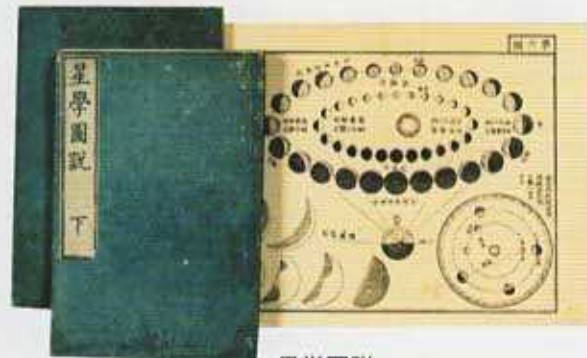
兵庫県令辞令



田税新法

孝平の功績としては、日本の近代化に必要な制度の骨組みを組み立てたことにあります。公議所副議長就任時には、議員の任期を4年とし、2年ごとにその半数を改選することなど現代にも通じる制度を確立しています。また、地租改正にあたっては「田税新法」を著し、土地の値段を定めた^{でんぜいしんぽう}地券を^{ちけん}発行し、地価に応じて金納させ

るとしています。このように、日本の近代化に果たした役割はとて大きなものでした。孝平は才能にあふれ、日本で最初の^{ほんやく}翻訳小説を書いたり、天文学、考古学などの本も出しています。また、日本最初の^{めいろくしゃ}学術団体である明六社にも福沢諭吉、^{もりありのり}森有礼らと参加しています。



星学図説

明治に入って出世したあとも、生まれ故郷である岩手の若者たちを世話し、岩手小学校の前身である^{せいがかっこう}菁莪学校に5,000円(当時の大臣の1年分の給料)という多額の寄付をしています。孝平にとって自分を育ててくれた郷土の先人に対する恩返し^{おんがへし}の思いと、郷土の子弟を^{いこうと}育てていこうとする熱い思いを感じます。



菁莪学校



神田孝平顕彰碑

神田孝平 年譜

文政13年(1830)	9月15日、美濃国不破郡岩手村に生まれる。
天保3年(1832)	父孟明 <small>もうめい</small> が亡くなる。
弘化3年(1846)	京都に出て伊那遠江守 <small>いなとおとうみのかみ</small> に仕える。
嘉永元年(1848)	伊那遠江守に従って江戸に下る。
嘉永4年(1851)	おじの神田柳溪 <small>りゅうけい</small> が亡くなり、帰郷する。
嘉永6年(1853)	再び江戸に出て蘭学 <small>らんがく</small> を学ぶ。
文久2年(1862)	蕃書調所 <small>ばんしょしらべしょ</small> (のち開成所 <small>かいせいじょ</small>)の教授方出役 <small>きょうじゅうがたしゆつやく</small> となる。
慶応4年 明治元年(1868)	京都の新政府へ出仕する。
明治4年(1871)	兵庫県令 <small>ひょうごけんれい</small> となり、地方へ転出する。
明治7年(1874)	明六社員 <small>めいりくしゃいん</small> となる。
明治9年(1876)	元老院議官 <small>げんろういんぎかん</small> となり、中央へ復帰する。
明治10年(1877)	文部少輔 <small>もんぶしょうすう</small> となる。
明治23年(1890)	貴族院議員 <small>きぞくいんぎいん</small> に勅選 <small>ちよくせん</small> され、錦鶏間祇候 <small>きんけいのみましこう</small> となる。
明治24年(1891)	願いにより貴族院議員を免ぜられる。
明治27年(1894)	正三位 <small>しょうさんみ</small> に叙せられる。
明治31年(1898)	男爵 <small>だんしやく</small> を授けられる。7月5日自邸で亡くなる。

岩手周辺



垂井町アクセスマップ



タルイピアセンター 図書館・歴史民俗資料館・歴史文献センター

〒503-2121 岐阜県不破郡垂井町2443-1
 TEL 0584-23-3746 FAX 0584-23-3745
<http://www.tarui-bunkazai.jp/>